

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (九州)		観光名所（従業員）	来客数の動き	・平日は半年並みか少し多い来客数だが、休日は一昨年を越す勢いとなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は高温多湿のなか、週末の各種催事への家族連れ客が多く、平日来客数の減少を補った。また売上・購入客数・購入単価が好調に推移し、お中元ギフトセンター、夏休み子ども催事で店舗内がにぎわってきた。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・お中元時期になり、客の買物も若干増えてきた。特に食品雑貨や生鮮食品のお中元を購入する客が結構いる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・このところ来客数が前年比でやや増えている。ただ一般的には来客数が増えると客単価が落ちるといことなので、一概に景気が良いと断定できる状況ではない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑の影響でエアコンや冷蔵庫の動きが予想以上に良い。ただ大型テレビ等の動きが鈍く、ボーナス商戦の恩恵にあずかれていない。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・梅雨明け後、季節商材が大きく伸びている。白物家電は全体的に好調である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・来客数、販売量共に増加している。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・前月、前々月と比較して、お中元時期に入ったため客単価が上がっている。前年比でも若干良い傾向にある。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（従業員）	単価の動き	・宝石などの高額商品の動きが良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	販売量の動き	・お中元の動きが良い。関東・関西方面からの動きは7月中旬で受注しており、良好である。残りは地元九州の受注である。8月上旬まで続く予定である。前年の売上は確保できており、上積みの可能性が高まっている。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	来客数の動き	・前年の熊本地震の反動もあり、来場は前年を上回って推移している。外国人観光客の売上も好調に推移している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比10%増である。客の話や様子からも景気の悪い話は聞こえてこない。
		旅行代理店（企画）	お客様の様子	・夏までは、非常に良い傾向である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・梅雨が明け、本格的な夏に突入り猛暑日が続いているため外国人観光客のタクシー利用も増えて好調である。
		美容室（経営者）	それ以外	・熊本地震の影響で店舗を移転する予定だが、次の店舗の準備がまだできていない。最悪の状況だが、周りには人通りも多く良い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今年の7月は今までにない猛暑で、商店街には空調設備がないため高齢の客が来れなかった。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・季節商材の先取りはしない分、季節感を実感する時期に入ると活発に動き出す。梅雨明けは早くなかったが、連日の猛暑でUV関連商品の動きは活発である。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・お中元の時期だが、前年は熊本地震の見舞いの返戻のやりとりが活発化していて個数も伸びたが、今年は落ちついており、低下した。また必需品も落ち着いたのか、客も必要なもの以外の購入しない姿勢が強い。	
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・熊本地震のバブル的な要素が強かったこの1年も、いろいろな制度の終了で今後の客に対する不安が出てきている。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・売上は前年を維持できていない。野菜の相場が安く売上を落としている。鮮魚も厳しい状況が続いている。客単価はかろうじて維持しているが来客数の減少が続いている。	
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・自社店舗の営業エリア内に競合先の出店が続いており、来客数が前年比減で推移している。	

スーパー（経理担当）	販売量の動き	・夏らしく暑くなってきて季節商材は動いているが、猛暑に伴う販売減に加え、野菜は安値、水産はアニサキス食中毒報道での生魚の販売減など全体的に販売量が減少している。
スーパー（統括者）	お客様の様子	・新規開店の時、極端に値引いた商品の動きは良いが、定価商品はついで買いが無い。近くのディスカウントストアと値段比較されているようであり、特に食料雑貨に関しては値段に敏感な客が多い。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今年は空梅雨で気温も高く飲料、アイスクリームを中心に販売量が増え前年比110%の伸びを示している。このまま天候が良好であれば更に売上増になる。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・九州北部豪雨による影響か、来街者がほとんどいない。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・猛暑の影響で薄手のカットソーを探す客が多いが、フリー客が見ているのはセール品ばかりで、気に入るものがあったとしても定価では買わない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車効果があり、新車販売が好調である。今年に入ってから多くの新型車が連続して投入された。7月は来客数も前年を上回り、業績は堅調に推移している。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・毎月の販売促進活動は順調である。店舗での来客数は少ないものの、1店舗あたりの売上はまとまっている。
ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・客の動きが、ここ最近安定している。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、やや減少傾向である。今年の7月は猛暑の影響により、販売数量は順調である。7月に入り、客からボーナスが支給されたことを聞くが、前年と比較するとさほど変わらなかったようである。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・夏休みに入り、来客数が急激に増加し、それに伴い売上も順調に推移している。気温が高いため屋内施設の需要が高まっていることもプラスに働いている。今年度はファッションを中心としたセールでは苦戦したが、その分エンターテイメントと飲食需要が伸びている。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・相変わらず外国人観光客による需要は高いが、国内においては客の動きが鈍い。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・日月曜の宿泊客数は減少しているが、単価が上がったままの状態である。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外は徐々に回復の兆しが見られるが一昨年には及ばない。特に韓国は北朝鮮情勢の影響もある。国内は京阪神が順調であるが、東京方面が伸びてこない。
タクシー運転手	お客様の様子	・あまりに日中が暑過ぎて昼間は少なく、夜のタクシー需要が多い。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・外国人観光客が前年に比べて少しずつ上向きになっている一方で、国内客が熊本地震の影響のためか、地方への流れが鈍化している。
美容室（経営者）	販売量の動き	・当業界では4～6月はおしゃれファッションをする時期で良くなるが、夏になると下がってくる。このところおしなべて山谷の小さい、変化のない時代になってきている。数字的にもあまり上げ下げがなく低成長が続いている。景気のでこ入れがあれば良い。
住宅販売会社（代表）	販売量の動き	・来客数はあまり変わらない。消費税の増税後は落ち込みが激しいので、その後の盛り返しがないとかなりきつくなってくる。
商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の影響で商店街への来客数が減った。
商店街（代表者）	来客数の動き	・大型店の早期セールの影響で来客数が減少し、客も目的以外の購買がない。
商店街（代表者）	販売量の動き	・職種によるが、新しいものを購入する客が全くいない。販売量は非常に低迷しており新規に購入しようとする意欲がない。終活に入った人が客層なのでなかなか売れない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の通行量も減少しており、来店客の購買単価も数量も減少し、低調なまま推移している。
商店街（代表者）	来客数の動き	・景気動向としてはあまり良くない状態が続いていたが、7月5日の九州北部豪雨の風評被害で非常に厳しく、消費までも影響している。

	一般小売店〔鮮魚〕(店員)	お客様の様子	・25日は土用の丑の日でウナギはよく売れたが、その他はさっぱりである。年齢的なものもあるのか、廃業しようかという話も聞いた。
	一般小売店〔茶〕(販売・事務)	来客数の動き	・毎日想像以上に暑い日が続き、しかも天候不順でもあり来客数は激減している。このままの状態が続けば今季の売上は過去最低となる。高齢者も多く買い控えは相変わらずである。
	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・九州北部豪雨等の天候不順の影響により、衣料品を始め動きが鈍く、客の購買意欲が感じられない。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・衣料品のセール商品の販売が低調である。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・景気そのものは上向いている。富裕層による時計などの高額品の売上が伸びており前年を上回っている。外国人観光客による売上も好調である。ただ、2年続きの九州の災害により地域の消費は少し冷えている。それを差し引いても景気はやや上向きである。
	百貨店(営業統括)	来客数の動き	・7月上旬の九州北部豪雨により被災地周辺からの来客数減少と近郊地区住民の購買意欲の低下は明らかで、来客数、売上共に大きな打撃を受けた。
	百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・7月の客単価は堅調だが、購入点数が落ちている。
	百貨店(マネージャー)	それ以外	・6月好調なまま7月に入ったが、月初の九州北部豪雨で売上が伸び悩んだ。
	スーパー(店長)	競争相手の様子	・前年は熊本地震の影響で近隣の店舗が3店舗閉店していたので前年比112~113%で推移していたが、今年は競合店が全て新規開店したので前年比90%で推移している。贈答品は前年並みであるが青果、鮮魚、精肉などは風評被害もありかなり苦戦している。
	コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・前年比でいうと今年は復興需要が少ない。店舗の前に高等支援学校ができ上がったので、建設現場からの来客数が減っている。
	衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・当社は現在50%割引で営業している。月初めの2日間は良かったが、それ以降は購買態度が非常に慎重で、安くても買わない状況が続いている。
	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・7月は団体客がちらほらあったが、継続することはなかった。忙しい日とそうでない日の差が激しい月であった。
	高級レストラン(専務)	来客数の動き	・九州北部豪雨で非常に客足が悪くなった。政治的な問題でなかなか景気が良くなっておらず、だんだん悪くなってきている。
	高級レストラン(支配人)	来客数の動き	・夕食時の来客数が減少している。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・九州北部豪雨の影響からか中旬以降の集客に陰りが出てきた。
	都市型ホテル(販売担当)	販売量の動き	・業種の問題もあるが、夏季のホテル業は宿泊が良いものの、宴会・婚礼などは閑散期である。前年よりもやや減少傾向である。
	タクシー運転手	お客様の様子	・病院へ行く高齢者の利用が減ってきている。医療費を節約しようという動きが出てきている。それによりタクシーを使わない状況になってきている。
	通信会社(営業)	販売量の動き	・夏休みに入り、お盆も含め稼働日が減る。また、今年から夏休みが一週間前倒しで明けるため、客の購買意欲に火がつかない。
	美容室(店長)	来客数の動き	・子どもが夏休みに入り来客数も多くなるが、低料金の店へ流れているのか来客数は減少している。
	音楽教室(管理担当)	来客数の動き	・夏休みで出かけることが多く、稽古ごとの体験には来ない。
	設計事務所(所長)	来客数の動き	・九州北部豪雨により観光客のキャンセルが続いている。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・九州北部豪雨や猛暑の影響があり、客の出足が前月比減である。来客数も少ないので売上も少なくなる。
	住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・展示場の来場者数が減少している。また商談の客も全体的に減少気味である。
x	商店街(代表者)	来客数の動き	・非常に悪い。猛暑のせいかもしれないが、人通りが全くない。
x	一般小売店〔青果〕(店長)	お客様の様子	・とにかく暑い。来客数も激減し、県外から来る野菜も輸送コストがかかり、例年だと高値になるが、そうでもない。夏の青果物の主役であるスイカが高騰している。主力商品で利益が出ず、厳しい状況が続いている。

	x	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・熊本地震で建物が全壊になったことで、店舗が取り壊され、奥まったスペースでやっているが商品が全く並べられない状態である。隣では取壊しの騒音がしており、出入りもしにくく、来客数もほぼゼロに近い状態である。
	x	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・2～3か月前から来客数が減っている。
企業 動向 関連 (九州)		-	-	-
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・板金もの、機械加工ものの受注が途切れない。同業の廃業も影響している。
		建設業（社員）	競争相手の様子	・官公庁工事の発注が多くなり、元請で受注できなくても下請で受注できている業者が増えてきている。若干の偏りはあるが手持ち工事が多くなってきている。急激な受注で逆に人手不足が発生しているのも事実である。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年比で一部、受注量が倍近い部門がある。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やコンビニエンスストアの売上が増加傾向にあるほか、分譲マンションなど住宅販売が高水準にある。また、新車販売やファーストフード店などの外食産業の売上も好調である。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・韓国、中国からの外国人観光客が多く高級酒、特にウイスキーの売上が伸び、買い漁りによる在庫不足が発生している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数・金額共に増加してきており、企業の投資が活発になってきている。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・夏のボーナスが増加している企業が多い。弊社は補助金を活用したリース契約を多数扱っているが、補助金採択の加点項目に「社員給与のベースアップ」がある。働き方改革も含めて、今後も社員の待遇改善もあり、景気は良くなっている。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7月になり暑い夏の到来で、スーパーマーケットや居酒屋向けが順調な動きである。特にビール消費に伴う食材の売行が好調である。例年だと胸肉の相場が大きく崩れる時期であるが、今年は胸肉に疲労回復の効果があるという報道で値崩れることもなく、収益にも大きく貢献している。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・野菜関係は前年の2～3割、過去5年で比較しても1割ほど単価が安い。果実関係は、前年と同じ単価で、過去5年で比べても同等か高い状況にある。野菜は年明けの稼ぎ時にも単価が安く、回復の基調が見えていない。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家具の小売は前年比10%近く減である。しかし業務用家具の中でホテル物件用家具の需要は前年比30%程度伸びているがこれは東京オリンピックに向けたホテル出店と外国人観光客の伸びを予測した需要増となっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今期に入って徐々に上がってきっていたが、夏場で上昇が止まって現状維持である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月受注量が増加し、このまま勢いに乗って行くかと思っていたが、今月は前月を下回ってしまった。通年の経験を翌期の予想に立てようと思うが難しくなった。
		その他製造業〔産業廃物処理業〕	取引先の様子	・今までのところ何も進展する内容が見受けられなかった。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・客の様子は変わっていない。
		通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・事業の柱となる公共関連の受注量は変わらない。今の国政や行政の沈滞を解消して新たな政策に期待する。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・景気が良くなる期待感はあるが、数字で見ると3か月前と変わらない状態である。良くなる動きはないが悪くなるといったこともないので現状維持である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・少し前は中国景気の減速による景気停滞要因が大きかったが、建設などの国内需要も高水準にあり、製造業も一定の受注は確保し、景気は悪くない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・貸出需資に変化がない。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先である中小企業は、九州北部豪雨の影響をあまり受けていないが、豪雨と猛暑の影響で一般的に客足が減っている。建設関係は九州北部豪雨の関連の建設受注が1年半後に期待できる。ただ総じて人手が足りず現状は変わらない。
	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移しており継続する。
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・研究会を通じて同業者が集まり情報交換をしているが、特に目立つような報告もない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・7月は異常気象で雨が多かたり極端に暑かたりする日が続いた。雨はマイナス要因だが暑さはプラスに作用するところもあるようで、売行きが良かったり、人出が多かたりすることもあり、雨で厳しかった分、取り戻している。
	その他サービス業【コンサルタント】（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村のコンサルタントへの委託業務は、6月の補正予算で追加の業務などの計上が少なかったこともあり、市民意識調査や計画策定の委託業務は、7月に実施された入札時において、予算の半額や、印刷や郵送代の実費程度の価格で落札される場合がある。このため他社の受注が困難となっており、景気が悪い状態が続いている。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・季節要因もあるが、減少傾向である。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1年の中でも生産量、販売量共に最も減少する時期でありしかたない。
	繊維工業（営業担当）	それ以外	・最低賃金の上昇に伴い、資金繰りや労働時間の問題で動きが縛られてしまう。設備投資などは皆無になってしまう。毎年20円以上もあがると国内の生産業はやめると、言われているようだ。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・売上も前年比1割近く落ちており、商社に聞いてもあまり値動きが良くない。天候不順も要因の一つである。例年夏は閑散期であるが、今年は特にひどい。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・九州北部豪雨の影響で年度初めに予定されていた案件が延期になった。発注者が豪雨調査対策に追われ、出件の延期で売上も延期となる。
	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・司法書士からの話、移転登記の件数が少なくなってきている。不動産の売買が少なくなってきているのと同じである。
	新聞社【広告】（担当者）	受注量や販売量の動き	・携わっている新聞広告の受注状況があまり良くない。同じ広告業界のテレビの状況もあまり良くない。
	x	*	*
雇用 関連 (九州)		-	-
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・求人数が多く、自社で募集してもなかなか応募者が来ないので、派遣会社へ依頼する企業が増えている。また、募集内容についても後任ではなく、増員で募集している企業が増えている。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・事務職を中心に派遣依頼は堅調である。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・生命保険会社からの事務派遣依頼は、長期・短期共に定期的に入ってきている。その他の業種については、例年と変わらない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数に関しては時期の割には動きがあるが、企業の急な欠員補充がほとんどであり、直接景気が上向しているわけではない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・売手市場が続き、引き続き求人数は一定量引き合いがある。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の採用意欲の低下が見られる。引き続き人員不足ではあるが、募集しても採用ができない期間が続いているため、繁忙期ではない時期には現存人員で業務を行えるように仕組化したり生産性向上施策に注力しているようである。採用に対する積極性は低下している。
	求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・いよいよ今月で大手求人出版社が紙から撤退し、Webを強化する。われわれ零細規模の出版社は少なからず影響を受ける。
	新聞社【求人広告】（社員）	求人数の動き	・新聞での求人件数に大きな変化がない。
	新聞社【求人広告】（担当者）	周辺企業の様子	・当地中心市街地などの貸ビル・貸室の空室率が非常に低いなど、中心市街地の人出や活気の良さが相変わらず続いている。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人案内、求人広告共に人手不足が顕著で、求人は多いが、応募が少ない、又はそれにあつたスキルの人も少なく、今後、景気の善し悪しはいかに人材を確保できるか、またはITを活用した会社でないとし
	職業安定所 (職員)	採用者数の動き	・事業所に状況を確認すると、産業別・規模別でかなり差があるものの、中小企業ではほとんどの事業所が前年比で変わらないとの回答が多い。一部建設業、食品製造業では業績が上がつた事業所もある。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・土木工事業や建設塗装業など、熊本地震復興に携わる業種の好調は続いている。ただし、資格保持者などの不足は続いており、人手不足のため応募不可などの事態が生じている。また、介護業、特に訪問介護も人手不足のため、介護利用を断らざるを得ない状態となっている。
	職業安定所 (職業紹介)	求人数の動き	・引き続き求人数は増加傾向がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・求人数が前年同期比で減少している。第3四半期以降の伸び率が鈍化している。
	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・来年の採用に向けた求人票の受理件数は、同数程度である。今後、福祉関係の求人は増加する見込みである。
	職業安定所 (所長)	求人数の動き	・求人数は前年同月比増で、求人倍率も求職者の減少等により高い数値を示しているが、前月比で若干ではあるが減少している。
x	-	-	-